

# UIFA ニュース

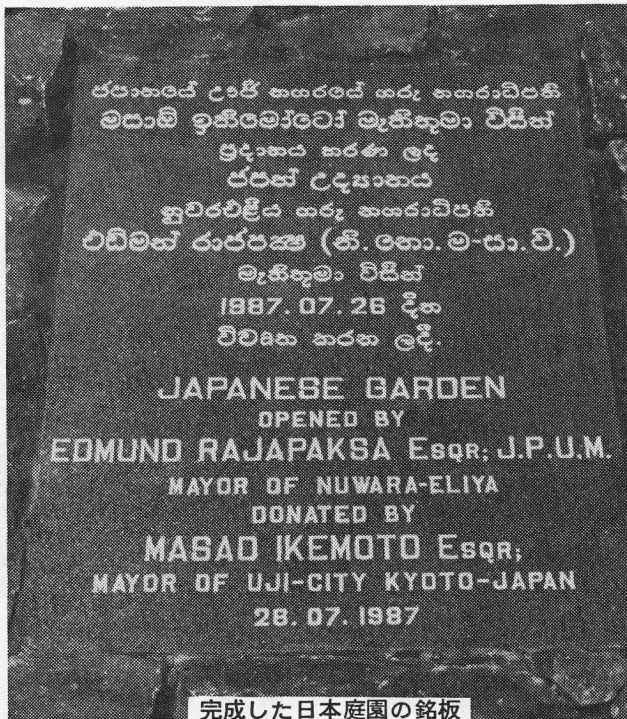
第 2 号

昭和62年8月25日

◆ 発行 宇治市国際親善協会

事務局：宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書課内

TEL 0774-22-3141 内線 208



完成した日本庭園の銘板

## 又市親善訪問を終えて

ヌワラエリヤ市親善訪問団団長

宇治市収入役

北 條 吉 郎

作庭団を含む親善訪問団々員の皆様、まづもって、団の使命達成に一方ならぬご尽力を戴きましたことに対し、ここに厚く御礼を申し上げます。

また、私達の行程に終始バックアップいただいた市役所の事



日本庭園完成記念式典 - ラジャパクセ市長 (中央左) と北條団長

務局、それから旅行をプロデュースしていただいた関西アマキ、現地での日本大使館、浜本特命全権大使ほか大使館員の皆様、ジュピターコーポレーションのヌワラエリヤ駐在員白城氏ご夫妻、同じくコロンボ駐在員中宮氏、現地通訳のバラスリヤ氏等々、本当に多くの人々のお力添えによって、日本庭園の完成記念式典―贈呈式とヌワラエリヤ市民との交流、

親交を深めるといふ目的を完全に果たし、全員無事帰宇することが出来ました。このことを想いおこしますとき、ただただ感謝の気持ちで一杯になります。本当に有難うございました。

さて、ここで私達の行程を簡単に振りかえってみますと、まず、七月二十三日午前八時、池本市長さんほか関係者の激励、お見送りを受けて勇躍市役所前を出発、伊丹空港正午発でタイのバンコックへ向いました。その日は空港近くのエアポートホテルで一泊。二十四日朝スリランカのロンボへ向けてフライト。ロンボでは、日本大使館を表敬訪問、訪問団の代表六名が、浜本大使にお目にかかることが出来、これまで種々お世話になった御礼と今後ともよろしくと申し上げますと、大使も「スリランカと外国の都市との友好関係は現在わずか三件であり、宇治市と又市との関係も、大切にしかもじつくりと続けていってほしい。お力添えできることがあれば、どうぞご連絡下さい」ということでした。このあと、キャンデイ市へ直行、ホテルスイスで宿泊となりました。

明けて二十五日、キャンデイから目的地のヌワエリヤ市までおよそ四時間バスで山路を、どんどん上って行き、午後一時ごろグラントホテルに到着。その間は壮大な規模の茶園が続き、

数か所の国営製茶工場の大きな建物も見えました。ホテルで先発隊の作庭団と合流、まことに感激的な再会でした。というのは、城島団長以下作庭団全員、日焼けしてまっ黒、それも並の黒さではありませんでした。実にキビシイ作業であったことが何も聞かなくてもわかりましたし、後程お話を聞くにつけても、大変なご苦労をいただいたことをヒシヒシと感じました。

その日の夕食には白城氏ご夫妻をお招きし、調査団、作庭団が大変お世話になったこと、又私達のためにも種々ご尽力いただいた事に感謝を申し上げ、話がはずみました。

二十六日は、いよいよ肝心の完成記念式典の当日です。午前十時、全団員でラジャパクセ市長宅を表敬訪問、市長も大変な喜びようで「すばらしい本格的な日本庭園を本当に有難う」と何度もくり返えし言っておられ、又作庭作業中は市長自身何度も現場を見に来て、飲み物などの差し入れをされたそうであります。

午後三時半からは、日本庭園の完成記念式典とその贈呈式です。ビクトリア公園の正面で、ラジャパクセ市長をはじめとする市役所、議会、民間関係者ら、およそ二百名の出迎えを受け、歓迎の民族舞踊キャンディダンスを先頭に、五百米先の日本庭園までパレード、なかなか、は

れがましいばかりの大歓迎でした。

まず、島（日本庭園をつくった島）の前の記念銘板をラジャパクセ市長と私で除幕したあと、飛び石づたいに島に渡って写真撮影、その後少しはなれた式典会場でセレモニーがありました。ラジャパクセ市長は「宇治市から贈られたこの庭園は、外国からの初めての、そして最高の贈り物であり、本当に有難う」とあいさつ。私も「お茶で結ばれた両市ですが、地理的には遠くても、友情の心はごく近い親しい友人ということを、この庭園を訪れるごとに感じてもらえれば最大の幸福である。どうぞいつまでも、この庭園を大切に可愛がってもらいたい」とあいさつし、池本市長から託された贈呈目録（「亀島」と命名）を手渡しました。

このあと公園内で紅茶パーティがあり、香り高いヌワエリヤ紅茶を楽しみながら、交流が深まりました。また、その夜は午後六時半から市長宅で市長招宴があり、このときは堤副団長がサロンをまわって出席されたほか、団員の女性四人がサリーをまとい、反対に又市の女子職員四人はゆかた姿でこのレセプションにのぞみ、ヤンヤの喝采を浴びて、会の雰囲気は大いに盛り上がったものでした。

二十七日、グラントホテルをラジャパクセ市



長ほかの見送りを受けて出発、丁度来たときの逆コースでキャンディ市へ。ホテルスイス到着後の午後は植物園を見学—CMでおなじみの「この木何の木気になる木」というとほうもなぐ大きい傘の木等を見学、夜は警戒嚴重な仏蘭寺を参拝しました。

二十八日はキャンディからコロomboへの行程ですが、ここでガンジー首相の来訪反対の騒動に遭遇し、随所で武装兵士、警官のチェックがあり、コロombo市の手前で通行遮断に会ってしまいました。そこで迂回し、やつのことではホテルランカ・オベロイにたどりつけました。しかし、外出禁止令が出されており、その日の午後の行事はすべてキャンセルせざるを得なくなりました。

二十九日いよいよスリランカを出発する日になりましたが、その日にガンジー首相が来る日とバッチリ重なり、果して空港まで行くことができるか、搭乗予定のタイ航空機が本当に来るのか、来ているのか、外出禁止令中であるが、私達日本人はパスポートを持っているので警察で許可をとることが出来ても、バスの運転手、ガイド、ポーターは現地人であるので外出の特別許可がとれるかどうか等五・六の条件のどれ一つ欠けても出発出来ない状況でしたが、アマ

キの富沢社長、川端氏、それから前述の中宮氏の情報収集、警察への交渉、大使館への連絡、バンコック空港への問い合わせ(コロombo空港へは電話がかからない)等々、獅子奮迅のご努力のおかげで、空港までたどり着くことが出来、予定よりは若干フライト・スタートが遅れましたが無事飛び立つことが出来ました。まったく人事を尽くして天命を待つ—その天命がついていたということでしょうか。仕事といってしまうばそれまでですが、アマキ社長富沢氏、川端氏、それから中宮氏には感謝の外ありません。午後六時すぎバンコック到着。デッシュタニホテルから即、全員が無事バンコックに着いたことを国際電話で宇治市事務局へ連絡し、各御家庭へ連絡を依頼しました。

その後はタイにおける日程を予定どおり消化し

## 友好の絆 大役を果たし感激

作庭団長 城 島 健 治

我々作庭団八名は、七月十八日午前六時、宇治市長池本正夫様はじめ市の幹部の方々、市議会、宇治市国際親善協会の方々、そして後日出発される訪問団の団長、副団長の方々の御見送

て、三十一日午後十時すぎ、全員無事帰宅しました。このように記憶にあるものをかけ足でふりかえって見たわけですが、まだまだその間に、アソカ女史が外出禁止令中に特別許可をとってホテルまで会いに来て下さった事、宮城議員さんのお薬のおかげでずいぶん助かった事、白城さんご夫妻のおにぎりの差し入れてみんなが生きかえった事、象に乗った事、スパイスあれこれ、買い物、食事等々いくら紙面があっても足らぬ感じがいたします。

しかし、終りよければすべて良しのことわざのとおり、関係者のすべてのみなさん方の善意とご協力のおかげで、重要使命を達成し、全員無事帰宇できましたことに対し、ここに重ねて深く感謝、御礼を申し上げまして、ご報告いたします。

りを受けて、宇治市役所を出発し、大阪国際空港からバンコック経由スリランカ国コロombo港に十九日午後一時に到着しました。以前に日本から送った燈籠や道具類の税関手続きを済ま

せ、キャンディ市のホテルに午後六時頃専用バスにて到着、翌日二十日午前八時三十分キャンディを出発しました。今迄暑かった気温が段々高度を増すごとに少しづつ涼しくなってきました。回りの風景が今迄はヤシ畑やゴム園、水田等であつたのが、一面良く手入れされた茶畑に変わってきた。

午前十一時すぎ、ヌワラエリヤ市のホテルに到着、昼食後少し休憩を取り、午後二時三十分ヌワラエリヤ市役所を訪問、ラジャパクセ市長や市の幹部の方々に会い、これからの作庭に関する打ち合せをした。その後、ピクトリア公園に行き作庭場所を踏査し、調査団からの報告を元に、明日からの作庭作業の準備に取りかかった。作庭に使用する景石、飛石、砕石等がすでに池の囲りに運ばれていた。島迄の沢飛の基礎も出来上がっていたが、少し低いようなので、もっと大きい石を調達することにした。クレーン車はたいへん旧式であり、やっと島迄とどく程度しかブームが伸びなかった。夕食の時に明日からの作業についての最後の打合せを行なった。いよいよ明日から作業が始まる。訪問団が到着する二十五日迄に完成できるだろうか。全員が、期待と不安の入り混った張り詰めた何とも言えぬ複雑な気持ちになつていようだった。

二十一日、六時起床、八時公園へ出発した。公園迄は、ホテルから歩いて十分程度であつた。日本から送つた荷物が着いていた。全員で解体、数量をチェックする。その間、昨日印を付けた石を現地人労働者が次々にトラックで公園内に運んで来た。クレーン車を使って沢飛を据える者と、亀島の役石の土台造りをする者と二班に分れて作業を行なった。沢飛の方は、天場が平らな高さ八十センチ内外の石を基礎の上に次々と据え付けていく。そして現地人労働者が運ぶコンクリートと栗石で固定していく。亀島の土台造りの方は、長さ二メートル、直径十センチ位の太さの丸太杭を約六十本程池の中に打ち込み、板で囲い、栗石砕石コンクリートで固めていった。現地人労働者約二十人程は、杭を作ったり、栗石、砕石、コンクリートの運搬や、景石の掘り方等を主に行なつてくれた。最初のうちは現地人との共同作業が余りうまくいかなかったが、見振り手振りや片言の英語で一緒に作業をしているうちに、お互いに意気が合つて来たようである。大体、沢飛や亀島の土台ができたので、亀の頭になる大きな石をクレーンで島内に運び入れた。そして、その石を約十メートル位離れた頭の所迄転がすことにした。なかなか動かない。現地の労働者もいっしょになつて押した。後から押す

者、前でロープを引っぱる者、皆んな「セーノ」 「セーノ」と声をあわせてやつのことと二トン位ある大きな石を土台の上迄転がし終つた時、拍手、そして歓声がわき上つた。皆んなそれぞれ握手しあい、お互いの力をたたえあつた。この作庭作業をいっしょにやり遂げられる自信がついてきた。これ以来、「セーノ」「セーノ」が我々と現地人労働者との合言葉になつた。夕方六時迄作業を行なった。予定通り順調に図どつた。二十二日、朝から沢飛のコンクリートの補強や島内の飛石の据え付けをする。景石が少し足りないのので現地人労働者が石を調達して来た。午後、三ツ又を組みチェーンボロッコで亀島の役石を据え付ける。現地の労働者が「セーノ」「セーノ」とチェーンを引く。細い体で弱々しく見えるがたいへんな力持ちでねばり強いのにには感心させられた。昼食は、ホテルで食べると時間もかかり、服もよごれており着変えねばならぬので弁当を作つてもらつた。「イエローライズ」という物である。たいへん辛い。それでも日本人向けに特別に調理してもらつていふということである。あまりの辛さに明日からサンドイッチに変えてもらう事にした。二十三日、平等院型燈籠の据付や蹲踞の設置、飛石の据付等を行う。それと平行して、島内



の芝張り、砂利敷部分の整地を行う。ヌワラエリヤ市役所職員のS・ジャコディー氏より大きな石があるのでこれも利用してほしい



亀島—織部型燈籠と竜安寺型蹲踞(手前)

と依頼があったので、その石を池の手前に景石として使用した。午後三時頃より樹木の調達に現場から三〜五キロ程離れたジャングルに行く。日本庭園にあらう木がなかなかない。調査

団が印を付けていた木を数本起し、不足分は公園内の木を調達するようにした。又、市側も我々の要望を良く聞き入れてくれた。木に印を付けて明日移植することにした。今迄島にかかっていた二つの木橋が取りはらわれ、池に水を入れ始めた。今頃は雨期だが、今年は雨がほとんど降っていないので水をためるのに時間がかかりそうだ。しかし、作業の方は晴天に恵まれ予定通り順調に進んでいる。石は全て据え付けた。後は樹木の移植を行なえば完成である。皆んなの表情もやわらいできた。予定通り作業が計どった安緒感からか、夕食の時にも笑いがこぼれる。少し余裕が出てきたようである。

二十四日、樹木の移植に取りかかる。土壌はやわらかい。ツバキ、ナンテン、アジサイ、ヒラドツツジ等を次々に起し所定の所に植付けていく。だんだん日本庭園らしくなってきた。

(「我々の任務は、はずかしくない日本庭園をつくることだ」と自問) 以前より要望していた白い玉砂利を、現地労働者十五人程が朝からトラックで調達に行った。帰って来たのは午後四時頃であった。後で聞いたところ、又市周辺には砕石や角ばった石はあるが、小さな白い固くて丸っぽい玉石が少い。四十キロ程走り回って一つ一つ拾い集めて来たのだということだ

た。(よくがんばってくれた、うれしかった) 夕方迄に銘板の据付けを残して全ての作業が完了した。

今日も又市のラジャパクセ市長が忙しい公務の合間をぬって我々を激励にやって来た。又、又市民の間でも日本庭園が話題になっているらしく、一般市民も有料の公園であるにもかかわらず見物に来るようになった。

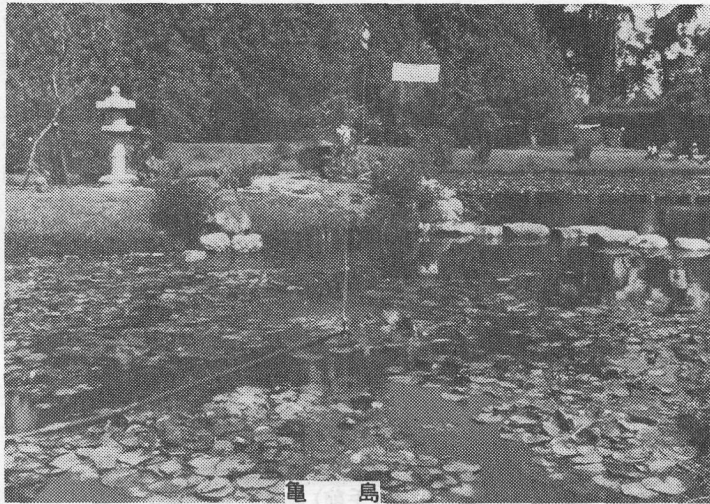
スマーネ氏の御好意により、午後七時頃より島の前の芝生の上でいっしょに働いた現地の労働者達と現地の酒「アラック」で乾杯、作業の打上げパーティを楽しんだ。お酒が入るにつれて太鼓に合わせて皆いっしょに歌をうたい踊り、庭の完成を喜び友好を誓い合った。責任を果たしほっと。よくやってくれた団員と現地労働者に心から感謝。

二十五日、朝、又市が用意した立派な大理石製の銘板が出来上がり、運ばれてきた。池の手前に据え付ける。全て完了した。

公園内の芝生は刈り取られ、道路はきれいに掃除され、明日の式典を待つばかりになった。(心がはずむ)

午後一時過ぎ、友好訪問団が到着し、我々作庭団は訪問団と合流した。

この日本庭園作庭に使用した主な材料は、飛



亀島

石四十個、亀島の景石を含めると大小合わせて八十個計約四十トンの岩石と、ツバキ、ヒラドツツジ等二十株の高低木、平等院型燈籠、織部型燈籠、竜安寺型蹲踞、白玉砂利0.5m、栗石8m、碎石3m、杭六十本等である。

最後に我々作庭団にとっては、今回の二週間の旅は、長かったが全員健康でケガもなく任務をやり遂げ無事帰国できた。今振り返ると、貴重な体験をさせて頂いたように思います。このよう



平等院型燈籠

な記念すべき行事に参加する機会を与えていただいた行政当局並びに国際親善協会の皆様方に厚く御礼申し上げます。そして作庭団員の皆様方、本当に御苦労様でした。全員がこの日本庭園を期日迄にやり遂げるんだという気迫と、メンバー一人ひとりが心と力を合せた結果あのように立派な日本庭園ができ上がったものと思います。このようなすばらしい体験を肥として、これからも仕事に励んでいきたいと思ひます。

### 中国咸陽市への 親善訪問団を募集

宇治市国際親善協会では、今年二つ目の事業取り組みとして、中国咸陽市へ友好親善訪問団を派遣します。

宇治市は昨年七月に当市の文化センターで友好都市提携を締結いたしました。一年経過の記念事業として、咸陽市への友好親善訪問団を左記要領で募集いたします。積極的な応募をお待ちしています。

#### 記

実施日 六十二年十月十一日～十月十九日

訪問先 中国、咸陽市

(北京、咸陽、西安、桂林、香港)

募集人員 三十名程度

申し込みべ切り 九月廿日まで

旅費 約三十二万円

申し込み先

宇治市国際親善協会事務局

(宇治市役所 秘書課内)

☎ 3141 内線 208

電話又は来庁による。

その他 なお応募者が多い場合は、抽せんにより決定します。



# 私のスリランカ訪問への動機

杉野美代子

昭和六十一年の正月、池本市長さんの新春講演会の話の中で「宇治市とヌワラエリヤ市が、お茶の関係で友好都市を結ぶことになりました。一般市民の方々にもスリランカを知って頂き多くの人々に訪問して頂きたい」と話されました。私はその時直感で発展途上国であっても、スリランカという国に魅力とあこがれと好奇心を持ちぜひ行ってみたいなーという気持ちになりました。こんなに早く夢が実現できたということは、今でも半信半疑なのです。でも今こうして旅の写真を眺めていると喜びと感動で一杯です。

七月の初めスリランカ友の会のお世話されている方から、「宇治市国際親善協会からスリランカ訪問が計画されていますから、友の会のメンバーで希望者があれば知らせて下さい」と話があり一応名前だけ申し込んでおいたのです。主人に話すと「何を考えているのだノ今家を建てている最中に行ける環境ではないだろう」と叱られました。それもそうだと自分も一回はあきらめました。でも、中村先生の「私のスリランカ」の本を思い出し、もう一度読んでいるうち

に、友の会で、スリランカ料理教室を開いて学んだこと、講演会を聞いたことが思い出され、むしろよりに行きたくなり、行けるものならと考えている折、再度友の会のお世話役の方から、今回の訪問参加の意義、さらに強引な魅力的なお誘いにひかれ、主人の反対を押し切って、行くことのみ考え、家庭の環境作りを毎日毎日やっけていくうちに、家族の者が承諾してくれている様子が感じられるようになってきました。私のみならず他のメンバーも、主婦が、九日間も家を留守にすることは想像以上に環境づくりが大変なことです。それだけに目的をもって意義ある結果を得て、肌で何かを感じて帰らなければ申し訳けない思いで一杯でした。すごい思いで参加した結果の自分自身のこれ迄の生活の中で体験できなかった、素晴らしい、貴重な体験ができたことに、今では池本市長さんを初め、お世話になった訪問団の皆様へ感謝の気持ち一杯です。私達国際親善協会のメンバーとして私達国際親善協会のメンバーとして訪問団に参加するにあたっては、お世話役の方を通して

## 世界歴史 都市博について

宇治市は、スリランカ国ヌワラエリヤ市並びに中国咸陽市と友好都市盟約を締結する一方、今年三月宇治市国際親善協会も発足し、市民参加の国際交流の素地が出来ました。

こうした中で、宇治市も、この世界歴史都市博へ提携締結の際等の交流記念品も出展し参画いたします。

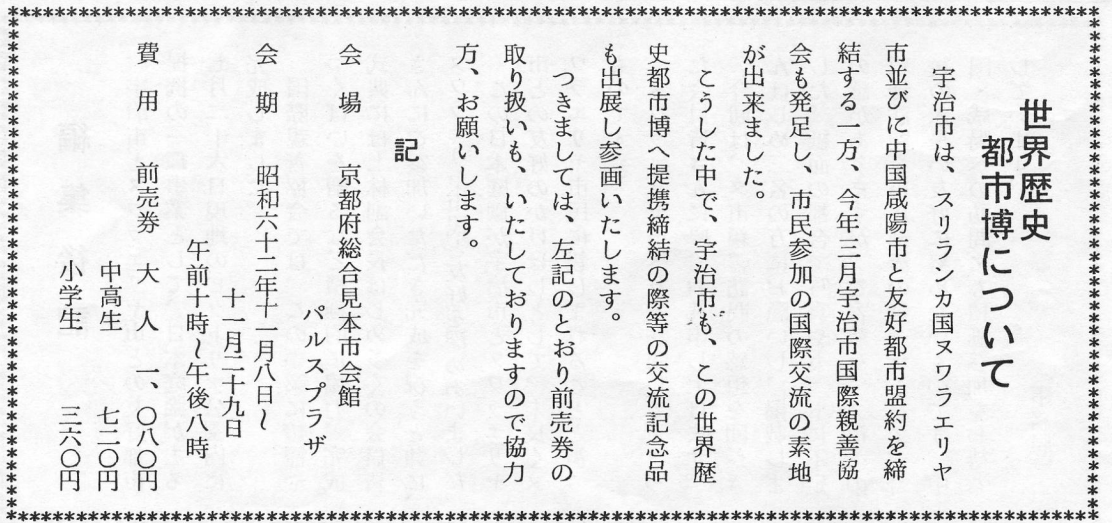
つきましては、左記のとおり前売券の取り扱いも、いたしておりますので協力方、お願いします。

### 記

会場 京都府総合見本市会館  
          パルスプラザ

会期 昭和六十二年十一月八日～  
          十一月二十九日  
          午前十時～午後八時

費用 前売券 大人 一、〇八〇円  
          中高生 七二〇円  
          小学生 三六〇円



北條団長さんに次の点をお願いしてまいりました。

一、日本庭園完成記念式典及関連行事への参加  
一、市民との交流 服装交換会の実施（ユカタとサリー）

一、幼児、小学生、中学生、教育についての意見交換会

一、人物交流 昨年宇治市におみえになり、市民交流会をやった、文化省次官のアソカ・グナワルダナ女史との面談。

コロンボ市内の異常事態がありました。が、団長さんをはじめお世話役の皆さんのお蔭で、初期の目的を達することが出来ました。

言葉が一〇〇%通じなくても心と心で十分触れ合うことが出来ました。世界の平和は遠いところにあるのではなし、私達一人ひとりの思いやりと交流で親善が図られていくものだと思いで感じて帰ってきました。市長さんが「一人でも多くの人が外国に行って何かを感じて来ていたければ、それだけでいいのです」と話されたことが私にもよく理解できました。今回の訪問団参加による貴重な体験を通して、発展途上国のスリランカ及ヌワラエリヤ市の発展のため小さなことでも協力できることがあれば積極的にやっていきたいと思っています。改めて日本の素晴らしさ、平和な幸せを感じているところです。

バスの中

まだか／＼の

ヌワラエリヤ

花うる児

にんじゃ もどきの

早ばしり

異国にて

子供の笑顔

つかれとぶ

ゆかた着る

異国の女性

ビューテフル

象の肌

ちくちくばりの

のりごち

### 編集後記

宇治市とヌワラエリヤ市との友好都市提携の一環事業として、日本庭園が去る七月二十六日現地のビクトリア公園内に完成しました。

国際親善協会では、この事業に燈籠やつくばいを贈るなど積極的に協力、完成式典には上林副会長はじめ多くの会員皆さんにご参加いただき完成を祝うと共に、ヌワラエリヤ市民と友好を深めました。この日本庭園が宇治市とヌワラエリヤ市との友好のかけはしとして、末長くヌワラエリヤ市民に親しまれることと祈るものです。

ヌワラエリヤ市へ友好訪問して下さいました会員皆さんに厚くお礼申し上げます。

今回は、ヌ市親善訪問の感想を団長さんはじめ三名の方にお願ひし、掲載しました。紙面の都合で写真やカットに不足の感がありますが、ご容赦を。ヌ市への親善訪問を市民交流の第一歩として、今後の末長い友好に努めたいものです。中国・咸陽への訪問にも積極参加をお待ちしています。

(事務局)